

令和4年度第1回 千葉県がん教育推進協議会	参考資料1
書面開催	

令和3年度第1回千葉県がん教育推進協議会議事録

1 日 時 令和3年9月10日（金） 午後6時00分から午後7時20分

2 場 所 WEB会議（Zoom）

3 出席委員

穴澤委員、飯笹委員、五十嵐委員、清田委員、佐藤委員、田端委員、野田委員、
細井委員、横手委員

4 議 題

報告事項

- （1）がん教育に係る法律及び計画の概要について
- （2）中間評価と今後の活動の方向性について
- （3）がん教育に係る外部講師派遣の実施状況について

議事事項

- （1）外部講師向けの研修会（案）
- （2）外部講師派遣終了後の外部講師向けアンケート（案）

その他

5 議事内容

議題 報告事項（1）がん教育に係る法律及び計画の概要について

議題 報告事項（2）中間評価と今後の活動の方向性について

議題 報告事項（3）がん教育に係る外部講師派遣の実施状況について

【事務局より資料1-1、1-2、1-3に基づき説明】

横手会長

1年ぶりの開催ということもあり、本日初めて参加される委員の皆様もいるので、一体この会議がどういう位置付けの成り立ちなのか。また、昨年度のこの委員会でどんな話し合いが行われたかということにも触れながら、千葉県がん教育推進協議会の活動、中間評

価、今後の活動の方向性、実際の外部講師派遣の実施状況ということの説明があった。

この協議会は、学習指導要領に基づくがん教育の推進ということが基本にある。そのため、教育委員会の皆様や関係団体の皆様との連携が必要であるということになっている。先ほどの報告について、何か質問・意見等はあるか。

まず私から、令和2年度は、やはりコロナの影響で、どうしても学校に行くことがなかなか難しく、外部講師の派遣が少なかったというように理解すればよろしいか。

○事務局

がん教育の依頼件数は6件のほかに追加で5件あったが、いずれも新型コロナウイルス感染症の拡大化防止のために、対面での授業が行えないということから、その5件が中止となった。

また、それ以外にも、新型コロナウイルス感染症が流行してからは、この外部講師派遣の依頼件数が少なくなっていた。

○横手会長

平成29年度5件、30年度17件、令和元年度27件と順調に増えていたのが、令和2年度6件ということで残念なところであったと思う。

そのほかに質問、意見はあるか。

これに関連して、私から学校関係の委員の方に質問したいが、今オンラインの授業なども大分普及してきて、大学では一般的になっている。

ただ、学校が中学校、小学校になるにつれ、なかなかそれは難しいと思うが、オンラインなどを活用すると、対面でできなくても、外部講師による授業を続けられるのではないか。

また、学校の先生と外部講師の間のやりとりも円滑になるのではないかと思うが、どうか。

学校に所属している田畑委員、学校の現状なども含めて意見はあるか。

○田端委員

これからというところもあるが、実際には、がん教育ではないかもしれないが、講師がリモートで授業を行っている学校があるというのは聞いている。

ただ、そのリモートに関しては、環境が整ってはいるものの、先生方の技術、やりようが、かなり学校間格差がまだまだあると感じている。本当にこれからやっ払いこうというところが大きいので、本校でも校内では、生徒の家と学校ではどんどん行えているが、講演会という形ではまだ行っていない。もしかしたらこれからという学校が多いのかもしれない。

○横手会長

穴澤委員から意見はあるか。

○穴澤委員

中学校では、ようやくタブレットが導入されて、少しずつ授業等で活用されている。まだ外部との会議など、タブレットをうまく活用できていると言われると、できてない教員が多くいる。オンライン授業に関してもまだ今、いろいろ設置をしている段階で、家庭との通信までは行けてない状況である。これから少しずつなっていくと思う。

○横手会長

今後、おそらくスマートフォンの普及などを見ても、大分国民的になってきているので、また来年度以降など活用できる可能性はあると2人のご意見を伺って思った。大変貴重な情報であった。

議題 議事事項（1） 外部講師向けの研修会（案）

【事務局より資料2-1、2-2、2-3に基づき説明】

○横手会長

この研修会は全国的に行われている企画なのか、それとも、千葉県独自の企画なのか。

○事務局

これは千葉県の独自のものであり、今回は第1回の企画になる。

○横手会長

昨年話し合われた、Y o u T u b e の活用やeラーニングの活用というのも取り入れてあり、充実した感じがする。質問、意見等はあるか。

この対象者の中にも入る医療従事者、外部講師の経験者ということで飯笹委員意見はあるか。

○飯笹委員

質問だが、これは外部講師としていく場合に、例えば医師であったり、看護師であったり、それからがんの経験者であったり、バックグラウンドが全く違う方に、同じものを見てもらいたいということか。

○事務局

今回の研修は、外部講師として、がん教育を行うことに対しての基本的な考え方のものである。今後、外部講師としてがん教育でどういったことを教えたほうが良いか、また、学校と円滑にするために事前の内容や授業を行う上で配慮することなどを、まずは知ってもらいたいと思っている。そのため、具体的に各外部講師がどのような内容を話すかというのではなく、すべての外部講師に係る心構えのようなものを知ってもらう研修会となっている。

○飯笹委員

そういうことか。時間のない中で、私の病院で実習研修を行っても医療従事者はeラーニングを見てくれない。それに対して、時間をとってeラーニングで行うのはなかなか難しい。まず、eラーニングだから受講するのは自由だが、そもそも希望者が出るかについては疑問がある。

○横手会長

現実を考えると飯笹委員の考え方はよくわかる。それぞれ40分と比較的長い時間を要する。倍速で聞けたりするのか。

○事務局

Y o u T u b e では動画の再生を最大2倍まで上げる事が出来る。Y o u T u b e 以外の、このeラーニングだが、こちらについても再生速度を調整する事が出来るので、時間がない方でも、再生速度を早めて見ていただければ、時間短縮になると思う。

○横手会長

今の飯笹委員の質問は非常に忙しい方にとってはしごく自然な質問である。アクセス数やどんな方が聞いているかについて、場合によっては、ごく簡単なアンケートのようなものでフィードバックをして活かすようにして、次の資料を作る時の参考にするとういと思う。

五十嵐委員は何か意見はあるか。

○五十嵐委員

私たち患者の側で考えていくと、これを修了した人に例えば修了証のようなものを出すのか。また、人材をプールするときその質を担保することをどのように考えているのか。修了したというだけで、もうそこに載せて派遣をするということなのか。

○事務局

現在のところは、この研修を受けていただくというところにとどまっています、この研修を受けたから、例えば名簿に載せる等のことはまだ考えていない。今後、来年度以降も研修を続け、回数を重ねることによって、深い内容も行っていきたいと考えている。そのような内容を受講された方については名簿に載せることも検討してもよいと思う。

○五十嵐委員

今のところはこれを受講した人を載せたりしないという事か。全国がん患者団体連合会のeラーニングを修了した人は名前を掲載しているが、県のeラーニングを修了したものには特に何も無いのか。

○事務局

今回のYouTubeの配信方法として、各医療機関や各患者団体に、視聴するためのアドレスを送付するが、動画を誰が視聴しているか個別に管理はしない。視聴数は把握することができるが、最後まで見たかということは把握できない。あくまでも今回の研修については、今までがん教育を行っていなかった方を対象とし、がん教育を行うというのはどういうことを広く知ってもらうことが第1の目的となる。今後、外部講師の派遣件数が増えた場合、各医療機関の派遣される医師や看護師の方々が、特定の人しか行けないとなると、数が増えることによって、対応できなくなることが予想される。今まで派遣されたことがなかった人の不安や抵抗感を減らすことによって、派遣人員を増やし、外部講師のなり手を増やすということをこの第1回目の研修の目標としている。

○五十嵐委員

千葉県で行っているピアサポーター養成講座がある。これは野田委員の方がもっと詳しいと思うので後で意見を言ってもらいたい。そこでもやはり、研修をした人たちがどこで活躍の場を得られるのかということが非常に大きな一つの問題になっている。

それでピアサポーターズサロンをセットで作ってその活動の場を作ったわけだが、何かそういうことをしていかなないと、自主的に学んだだけでは依頼は来ない。

今ほとんどの外部講師として行っているのは医師、看護師です。だからその状況を変えていく必要があると思っている。

そのために、今回1年目はこれでよいとは思いますが、次に繋がるようなものにしてもらいたい。

○横手会長

重要な指摘だと思う。講師の質を確保またその方達のやりがい、このモチベーションの向上ということにも、両方繋がってくると思う。そういう意味では、これを学ぶことで、次に繋がるというようなこと、そして、そういう人が呼ばれていくというサイクルを作ることはすごく大事である。

野田委員の名前が出たが、野田委員の経験も踏まえて意見はあるか。

○野田委員

まず今回、千葉県で企画された研修会、その目的としては、そもそもがん教育とは何なのかということ、できるだけこれから関わる方々の共通認識として、しっかりしたものを知ってもらおう。そういう意味で広い間口を開けていると思うので、それはそれでよいと思う。まず、がん教育とは何なのかということをおぼつかないままに進むのは難しい。研修会自体はよいと思う。

ただ、例えば先ほどの全国がん患者連合会のeラーニングもそうだが、私も含めて千葉県でもすでにこの研修の修了書を持っている人が何人かいる。本人の許可を得た上で、全がん連のホームページに県ごとに修了者の名前が記載されており、かつ、教育委員会の方にその名簿を全国がん患者連合会から送付していると聞いている。今現在千葉県のホームページでは、患者団体ごとに派遣できる人がいるかいないかはわかるが、例えば個人の立場で体験者がそういったeラーニングを自分なりに学んでも、今のところそれを表明できる場がないということが起きている。ぜひそのあたりのマッチングということも含めて、仕組みづくりを考えてもらいたい。

一点、先ほど資料1-3のがん教育に係る外部講師派遣の実施状況についてで、外部講師の派遣実績が増えているという話があったが、例えばスライド12ページで、職種の内訳では、がん経験者は平成30年度に1件ということで、この5年間で体験者は1回しか呼ばれていない。一方で、スライドの14ページでは、実績の中で、令和元年度はがん体験について5回話されている。しかしながら、これを考えるとがん体験は体験者ではなく、医療者が代わって話をしていたと想像する。やはりそのあたりのところで、がん体験を踏まえて、子供たちにメッセージをきちんと伝えていくということを準備している人たちもいるので、できるだけそういった方達がうまく教育委員会などと繋がっていけるような仕組みを考えてもらえればと思う。

○横手会長

大変貴重な意見だと思う。事務局にはぜひ検討してもらいたい。

今の五十嵐委員と野田委員の話聞いて、この全国がん患者団体連合会とタイアップして何か行えばより素晴らしい活動ができると思うが、そのあたりは難しいのか。五十嵐委員、意見はあるか。

○五十嵐委員

そちらは野田委員の方が関係を持っている。

○横手会長

野田委員どうか。

○野田委員

全国がん患者団体連合会が全国のがん教育の場に、全国がん患者団体連合会のeラーニングを受けた人を派遣するとか、マッチングするとかは多分無理だと思います。全国がん患者団体連合会と言っているが、全国の患者、がんの患者団体で、そこに加盟している団体が40か50ぐらいある。その全国がん患者団体連合会ができることとしてeラーニングを作って全国どこからでも学べる機会を作っていることと、修了者の名簿を作って教育委員会に情報提供しているというところで全国がん患者団体連合会がそういう役割を担ってくれている。実際の活動となると、やはり自治体単位というか都道府県毎に工夫が必要なのかと思う。

○横手会長

よくわかった。そうするとやはり働きを補完しあうということも含めて、eラーニングは全国がん患者団体連合会で確立された方法から多くを学んで進めていくとよいと思う。私からプリミティブな質問をしたがそのほかにあるか。このeラーニングはまだ初年度なのでこれから始まっていくところなので、その評価をしっかりと行って、より良いものにつなげることが大事だと思う。細井委員から意見はあるか。

○細井委員

昨年の一月に、千葉県医師会学校医講習会で東京女子医科大学の林先生にがん教育の話をしてもらい、参加した先生方からは非常に好評の研修会だった。

全国がん患者団体連合会のeラーニングも林先生が講演している。医療者としてはどういう姿勢で臨むのかということについては、この林先生の話が非常に良いと思っている。

それからもう一点、私としては医師がこの外部講師としてよく依頼を受けている件に関しては、子供が科学的知識という意味で興味を持ってもらう側面があると思う。だが、が

ん教育はそれだけではなく、むしろがんは日常的に皆さんが患う可能性がある病気で、それに対するもっと身近な患者によるがんを患っている人の声というのは非常に重要だと思う。そうすると、学校の先生が意識して患者の話を聞きましょうという方向性に向けてもらおうと、もっとがんの方の話を聞く機会が増えると考えます。

○横手会長

大変貴重な意見だった。各委員の意見を聞くと、まずはスタートポイントとしては県が大事なことを始めた。これを聞いたことでどのように評価されるか、その登録や開示の仕組みを考えていく必要がある。またそれを通じて、医師や医療従事者のみならず、がん経験者の方が外部講師としてより活躍し、そしてその声を伝えられるような仕組み作りも大事である。なかなか40分のeラーニングを聞くのは大変であり、これを簡潔に、みんなが学べるような形というのも作っていく必要がある。よりよい形に2年目以降をしていくようなフィードバックの機会を持てればよいと思う。

議題 議事事項（2） 外部講師派遣終了後の外部講師向けアンケート

【事務局より資料3に基づき説明】

○横手会長

このアンケート案について、飯笹委員に意見を伺いたい。

○飯笹委員

アンケートは良いとは思いますが、アンケート自体というより先ほどのことでもいろいろと考えていた。アンケートについては、昨年私もこのコロナ禍でも、外部講師として行ったが、学校側から個々の生徒たちからお礼の手紙をもらい感激した。アンケートをやってフィードバックできるのは良いと思うし、内容もこのようなもので良いのではないかと。

○横手会長

清田委員、何か意見はあるか。

○清田委員

私は小学校の教員を務めており、教育現場にいるが、教育現場からしてみると、今話があったアンケートからは離れてしまうが、専門家の話を聞けたり実際の体験談をがん経験者の方から生の声を聞けたりするという事は、子供たちにとって意味のあることだと思う。また感じることもあると思う。我々教員が教える以上のものが子供たちに何か返っていくと思う。このライブでの講師派遣というものを、ぜひ確立出来たらと聞いていて思う。

○横手会長

この活動で、ぜひ成功に発展させていくことが、おそらく、清田委員の要望にも繋がっていくと思う。患者団体の野田委員から意見はあるか。

○野田委員

このアンケートを見て、もし追加するとすれば、オンラインで行ったのか対面で行ったかという開催方法について問うことや、対象がクラス単位だったのか学年単位だったのか学校単位だったのかということ。例えば、クラス30人に向かって教室で話すのと、体育館で300人に話すのでは、話し手としても大分印象もやり方も変わると思うので、そういった実施状況がどういったものだったのかを問うような項目があっても良いと思う。

○横手会長

あと、私から先ほどのeラーニング、これについての何か意見も聞いてよいと思う。1枚に収めることが大事だと思うので、あまり多くは盛り込めないが、事務局には検討してもらいたい。

穴澤委員から何か意見はあるか。

○穴澤委員

今、中学校で、は警察の方の講演会や性に関する講演会などを定期的に行っていることが多かったが、私の赴任した学校では、がん教育に関して講師を依頼したという経験はなかった。しかし、話を聞いていてそういう機会があって、本当に生の声ではないが、教員が知識として伝えるだけではない機会があったらすごく良いと感じた。

○横手会長

本当に長生きの社会、長寿社会になって2人に1人、3人に1人以上がんに罹患することは皆で知っておくべきことだと思う。本当に子どもの感性豊かなうちに、こういうことをいろいろ学ぶことは、すごく重要だと思う。

○横手会長

最後に移る前に、このアンケートについて意見、他にある方がいたらお願いしたい。それでは今出たような意見を事務局として含めてもらい、場合によっては、委員に回覧して承認という形でよいのではないかと思う。

議題 その他

【事務局より資料4に基づき説明】

○横手会長

これからどんどんそういう情報機器が発達するでしょうし、若い方、中学校の人では、ツイッターやインスタグラムなども教育に使えるかもしれない。また、医療従事者だけでなく学校の先生の忙しさも今半端なものではないと感じている。その中で負担を減らしながら、この新しいがん教育を行っていくにはどうしたらよいか、様々話し合うことがあると思う。今日は時間が限られているので、一つ二つ意見を伺いたい。佐藤委員、何か意見はあるか。

○佐藤委員

皆さんの貴重な意見や話を聞く事が出来てよかった。その他の内容にあったが、私の中学生の子供も実際に学校からタブレットを持ってきている。授業はまだ通常通り行っている。実際オンラインは行っていないが、やはりこういったタブレットやオンラインを活用して今後、先ほど上がった話やYouTubeなど、様々な今の時代にあったような教育をやっていければと思う。

○横手会長

まだまだ学校によってその普及の度合いが違うという意見もあった。今後はそれを見な

がら、Y o u T u b eなどを活用すると、1回講師が話したものを再利用することもできる。それは学校の先生や講師の負担も減らしながら有効な教育ができるというところにも繋がると思う。ぜひこれは、新しい時代の教育を考えていく必要があると思う。

先ほど飯笹委員が考えてから意見するとのことだったが、何か意見はあるか。

○飯笹委員

私は去年小学校で、その前年は夜間の高校生に対して教えて感じたことがあるが、話しておきたいのは、外部講師としてなるのが医師や看護師、それから患者ということで、おそらく教える内容が共通化されていない可能性が非常に高いと思う。大学でも教育を行っていたことがあるが、カリキュラムのような、ここだけは教えないといけない部分をはっきりとさせる。コアなスライドをいくつか作っておいてそれだけは共通で教える。それを行ってから、患者であれば体験談を話す、医師であれば本当の医療現場のことを話すというように時間を使うようなこともあってよいと思う。こういう時期なので、そういったものをコアな部分だけはY o u T u b eみたいなもので画像もつくっておいて、そこだけを最初見てもらった上で、講師の方が自分の領域について話すという形があっても良いと思う。「がんの予防」、「検診」、「がんとは」、「がん患者の体験談」だとか区分けを行っているが、「がんとは」という部分でどういったことを教えないといけないのかをもう少し詳しく、カリキュラムを作って共通させないと少し話が偏った内容になってしまうと危惧している。自分で行っていて、患者が話したらこのような話ではないだろうという思いもある。それによって希望としていなかったような不満が出てくる可能性があるのもそういったところを少し考えてもらい。

○横手会長

まさにその通りだと思う。今振り返ると、昨年の議論の中にも同じ提案があった。飯笹委員の御発言であったと思う、基本的なスライド集を作成することはクオリティコントロールでもあると思う。それぞれの体系に基づいた重要な話もあると思うが、基本として押さえるところ、これはeラーニングで講演してもらって先生方のスライドを活用するというものでもよいが、この基本的な教材の作成という可能性あるいは今後の考え方について事務局どうか。

○事務局

まず、がんの外部講師のための基本的なモジュールがいくつかあり、そのモジュールを自由に組み合わせて使ってもらおうというのが現時点でも文部科学省で用意されている。そのような教材が、がんの外部講師の方に知られていないので、しっかり周知を行っていく必要性を感じた。

○横手会長

1 モジュールあたりスライド何枚ぐらいなのか。

○事務局

各モジュールによって違うが、各内容数枚程度でまとまっているものもある。小学校にはこういった組み合わせが良いなどを文部科学省で例示しているので、そこを参考にすれば、新たに1から作らなくてもある程度の需要を満たすことはできると考えている。この研修会の動画でもそういったモジュールがあることを紹介し、周知できたらと考えている。

○横手会長

こういう形で始めるということで飯笹委員よろしいか。

○飯笹委員

結構だと思う。高校生と小学生に対して自分でスライドを用意するとなると、漫画みたいなものから大人が使えるようなものまで、自分で探さないといけないのは大変である。ぜひその辺は外部講師の方に、前提としてそれがあるということを教えてもらいたい。

○横手会長

それでそのスライドに対するフィードバックみたいにアンケートで意見を聞くのもよいかも。そうするとより良くなるだろう。

○学校安全保健課

事務局から話のあった文部科学省のモジュールだが、しばらく前から毎年、県の教育委

員会から市町村の教育委員会のほうにも周知している。また、教育委員会から学校にも配られていると考えている。

学校安全保健課でも授業実践研修会というものを行っており、いくつかの学校に取り組んでもらっているが、必ずこのモジュールを使ってもらおうようにしている。ただ、モジュールはたくさんあるので、どれを使うかというのは内容によって選んでもらっている。周知も図っており、ぜひ使ってもらいたい。

それから、このがん教育が今の指導要領になってまだ数年で始まったばかりなので、がん教育はまだ黎明期というかこれからだと思う。ですから、患者団体の皆さんにも、ぜひ外部講師としてこれからどんどん入ってもらいたい。年を経るにつれて教員の授業も工夫されていくと思うので、モジュールも活用しながら、授業の内容も年を経るごとに工夫され、深まっていくことを期待したいと考えている。

○横手会長

今の情報があるとすごく進むような気がする。外部講師の候補の方も安心するのではないか。そろそろ時間も押しているのでその他のフリーディスカッションで意見はあるか、五十嵐委員意見はあるか。

○五十嵐委員

私のところにもこのモジュールが入ったCDが送付された。文部科学省のホームページからもダウンロードできるが、見てみてもなかなか要領を得た作りになっているので、ぜひ使ってもらえたらと思う。それで、実際にどれくらい使ったかというアンケートなどをとって、周知してもらいたい。

○横手会長

実際に五十嵐委員が使ってよいというのは大事なことである。

田端委員、何か意見はあるか。

○田端委員

私も実際、自分の授業でこのモジュールを使っている。外部講師の先生方にこれが周知されていなかったのは残念だったと思う。事前打ち合わせで、各学校がこんな話をして欲

しいというところを、モジュールと合わせて行えると外部講師の方にはここを話してもらおう。

その前後に学校では教師がこういう話をするというように役割分担ができると、さらに深まると思う。

○横手会長

そういう情報は大事である。先ほどのeラーニングもさることながら、このモジュールの存在をしっかりと周知して、その使い方というところから入るといろいろなことが効率的にまた、有効にできると思う。

大変良い情報が得られたが、その他、何か質問、意見、提言等あるか。

○野田委員

昨年に引き続き本年度もこの会議が開かれ、去年と比べてずいぶんがん教育に対する方向性が皆さん同じ方を向いてきたなというように感じられて、とてもうれしく思う。

先ほど穴澤委員が、がん体験者ならではの話が子供たちにとってすごくよいかもしいという話があったりしたが、おそらく助友先生が話すと思うが、がん体験者が話した方がより子供たちに伝わるものと、先生や医療者が話した方がより伝わるものがやはりきちんとあるということもわかっているようだ。また、田端委員が話したように、モジュールなどをうまく使いながらということで、やはり実際には体験者でもいろいろな話をしてしまい、とても偏った話をしてしまうとか、がん教育ではなくただの自分の体験の語りには終始してしまうケースとか、そういったあまりよくない状況というのも全国でいろいろ聞かれている。特に私たち患者、がん体験者は医療に関しては素人だからこそ、やはりきちんとした研修などを受けて、子供たちのための教育なのだということをしっかり頭に置いた上で、先生方と相談しながら進めていければ良いと思った。

○横手会長

大変よいまとめをしてもらった。医療従事者や患者は教育というものを体系だって習ってきたわけではないので、どう伝えるかは人それぞれバリエーションがあると思う。そういう意味では、そのモジュールなどを含めて、基本これは伝えよう、それから患者にはこういうところを強調して欲しいとか、医者にはこういうところを言って欲しい、先生に

はこういうところを言って欲しいというようなことが体系立って示されると、より良い形になるだろうし、千葉県が全国をリードできるようながん教育の形も見えてくるのではないかと思う。ぜひ事務局にはそういうところも上手にまとめてもらい、我々の方向性を示してほしい。

本日の準備された議題は以上で終了する。

【議事終了】